

難波田城だより

2014年冬

62号

編集・発行

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

NEWS from NANBATAJO

富士見市立難波田城資料館

江戸城を訪ねて

市民学芸員 松村 利訓

10月25日、難波田城公園市民学芸員12名が、秋の管外研修のため皇居東御苑^{ぎょえん}にむかいました。皇居東御苑は旧江戸城本丸、二の丸及び三の丸の一部を庭園として整備したものです。江戸城は12世紀頃に江戸氏が築いた館の跡に、太田道灌が1457年に築城したといわれています。徳川家康が江戸に入った1590年以降、何次にも分けて拡張されました。江戸幕府が開かれてからは、「天下普請」といわれる全国の名を動員する一大土木事業を行い、三代家光が巨大城郭の総構えを完成させました。



皇居東御苑略図

東西線竹橋駅で地下鉄を降り、地上に出て、皇居を周回するランナーの波に逆らうように歩き始めると、平川橋の手前に重量感のある「太田道灌公追慕之碑」がありました。木製の欄干に銅製の擬宝珠のついた橋を渡ると平川門があります。平川門は外側の高麗門、内側の渡櫓門の2門からなり、その間はL字状で枳形^{ますがた}と呼ばれる防御構造になっています。この門は、江戸城の東北側で鬼門にあたり、大奥に近いので大奥女中の出入りする門であったようです。

平川門から西に向かい梅林坂を上ると右手に北桔橋門があります。この門は、有事には濠に架かった

橋を跳ね上げられるようになっていました。橋の両側の濠の石垣は、高く雄大でみごとな眺めです。

向きを変えると、すぐ天守台の石垣に突き当たり、石垣を回り込むと、本丸御殿跡の広大な芝生の広場にでます。家康の築いた天守閣は本丸の中央にありましたが、二代秀忠がほぼ現在地に移し、三代家光が改築し完成させたといえます。五層六階建てで、高さは約58mあったそうです。明暦3(1657)年の大火で天守閣と本丸御殿が焼失しました。天守閣はそのまま再建されませんでした。本丸御殿は再建されましたが、その後三回焼失し、文久3年(1863)の焼失後は再建されていません。本丸御殿は表向・中奥・大奥と三つに分かれ、一万一千四百坪(約37,000㎡)あったといわれています。

浅野内匠頭^{たくみのかみ}が吉良上野介^{こうずけのすけ}を斬りつけた松の廊下跡を過ぎ、茂みの奥を見るとフェンスに囲まれた三重の富士見櫓^{やぐら}があります。本丸玄関跡、百人番所を見学し、二の丸庭園で休憩をとりました。その後、三の丸に向かいました。大手三の門跡の濠は埋め立てられており、現在「三の丸尚蔵館^{しやうぞうかん}」があります。大手門を出て橋を渡った所にはかつて広場があり、家臣の多くはここで殿の帰りを待ったそうです。

今回の研修では、旧江戸城のほんの一部分を見学しただけですが、その歴史は、圧倒されるほどの深く大きな広がりがある、と感じました。



天守台見学の様子

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員(広報担当)が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

ごりんづか
五輪塚

公園内の田んぼの横から、柵の向こうを見ると、2基の石塔が並んでいます。

この石塔は、難波田氏一族の墓とか供養塔と伝えられています。また、五輪塚という名ですが、五輪塔があるのではなく、実際は室町時代の宝篋印塔一基と、板碑の断片が置かれています。

五輪塚の存在については、『新編武蔵風土記稿』南畑村沿革史』などの文献で記録されてきました。また塚にまつわる伝説も残されており、塚には鎧、兜や金・銅造りの船が埋められていて、これを掘った、いたずらをする、目がつぶれたり、病気になる」といわれています。これらの伝承は『おじみの伝説・昔ばなし 資料篇 二』や 埼玉県の民話と伝説 大間編』にまとめられています。また資料館が作成した紙芝居にも五輪塚に関するものがあります。

五輪塚は、難波田城跡に残る貴重な遺産として今もいにしへの佇まいを見せています。(稲植保美)



園内田んぼ横から五輪塚を望む(中央)



五輪塚(近景)

おもしろ・なつかし体験④

昔の道具ではかろう

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

11月1日のちよっと体験は「昔の道具ではかろう」。道具を実際に使った世代から、そうでない世代まで多数の参加がありました。「はかり」の意味もわからない子どもも、はかる野菜や果物をさおばかりの皿にのせ、並べ、落としては笑い、と楽しく遊んでいました。

今回用意された器具は、一升枡、カービメーター(距離の計測)、さおばかり、上皿天秤(薬の計量)などです。特にカービメーターは印象に残りました。「難波田城からあなたの家まで何キロでしょうか」。地図上をなぞるだけで、その距離が出ます。かなり

古い物ですが、精巧な作りには驚きでした。会場には、身長や体重を尺貫に換算できるプリントも用意されていました。尺貫表記を見て、子どもの頃を思い出された方もいたと思います。一升枡での米の計量は、測り方によって多くも少なくもなるとのこと。それに関する商売での売り手と買い手とのやり取りの話は、興味深いものでした。また上皿天秤の計量で用いた薬包紙は、一昔まえの物になりました。

来場された皆様には、この体験を通じて、日本の単位の歴史や、はかり方の変化をたどっていただけたら嬉しいことです。なお、来夏まで穀蔵展示室では「はかる道具」を展示しています。(横田康男)



さおばかりでの計量に挑戦



野菜をはかる子どもたち

人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介しします。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

学校日誌にみる農繁休業

学校日誌とは

昨年から今年にかけて鶴瀬小学校と南畑小学校で保管されてきた学校日誌が当館に寄贈されました。学校日誌は学校教育法施行規則で学校に備えなければならない文書の一つとされています。保存年数が 5 年とされているため、古い学校日誌は残りにくいとされています。しかし、鶴瀬小学校では大正 11 年(1922)以降の日誌が、南畑小学校(大久保分校のものを含む)では昭和 25 年(1950)以降の日誌が保存されてきました(一部の年を欠く)。

学校日誌には、日々の教育活動が記録されています。記載項目は時期によって異なりますが、天候、気温、学年別・男女別の出欠人数、記事からなっています。記事には学校で行われた行事や式典、教員の出張や休暇、来校者などに加えて、社会の動きが記されていることもあります。

農繁休業

現在の小中学校で行われていない休業に「農繁休業」があります。これは、春の田植えや秋の稲刈りなど農繁期に、家の農作業を手伝うために、農村部の小中学校で設けられていた休業日です。学校日誌の記載から、鶴瀬小学校と南畑小学校で設けられた農繁休業の実施日を学校別にまとめたものが右の表です。一日授業を行わない休業だけでなく、短縮授業にする「農繁短縮」も行われていました。

鶴瀬小学校の農繁休業は、昭和 11 年(1936)までは 5 月でしたが、12 年以降は 6 月に変わりました。また、昭和 21 年(1946)から 30 年(1955)には春だけでなく、秋にも農繁休業・短縮を設ける年がありました。農繁休業の日数は一週間前後でしたが、終戦後

の昭和 21・22・24 年には日数が大幅に増え、農繁休業という記載が無い休業日も含めると、最大 15 日間になります。天候によって日程を変更することもあったようで、昭和 22 年(1947)6 月 28 日(土)には雨天のため農繁休業を順延して授業を行い、代わりに 30 日が休業となっています。その後、昭和 29 年(1954)になると農繁休業は無くなり、短縮のみになり、昭和 33 年(1958)には行われなくなりました。

南畑小学校の農繁休業は 6 月下旬に行われていました。昭和 28 年の 6 日間で最多で、次第に日数が減っていきました。そして、昭和 33 年を最後に、以後は農繁休業・短縮が実

鶴瀬小学校

年	農繁休業日
大正 11 年	5/15-20
大正 14 年	5/18-23
大正 15 年	5/28-6/2
昭和 3 年	5/18-24
昭和 5 年	5/7-13
昭和 6 年	5/20-26
昭和 7 年	5/19-25
昭和 11 年	5/21-24
昭和 12 年	6/16-20
昭和 14 年	6/21-24
昭和 16 年	6/17-21
昭和 17 年	6/15-19, 20
昭和 18 年	6/17-22, 23
昭和 19 年	6/13-17
昭和 20 年	6/15-22
昭和 21 年	6/21-26, 11/1-2, 3-5
昭和 22 年	6/10-6/14, 6/23-27, 30, (7/1), (10/27, 11/4-8)
昭和 24 年	6/2-5, (6/6), 6/22-25, 10/29-11/4
昭和 25 年	6/15-17, (6/19), 10/26-28
昭和 29 年	(6/14-16)
昭和 30 年	(6/15-17, 11/1)

南畑小学校

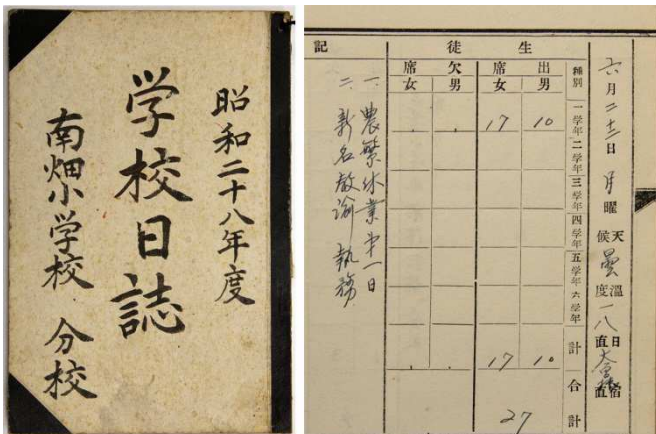
年	農繁休業日
昭和 25 年	6/21-24
昭和 28 年	6/22-6/27
昭和 29 年	6/24-27, (28-30)
昭和 30 年	(6/22, 23) 6/24-25
昭和 31 年	6/28-29
昭和 32 年	6/28-29
昭和 33 年	6/27

※()の日は農繁短縮
※農繁休業と明記がなくとも、時期などから農繁休業と思われる日を含む。

施されなくなりました。なお、昭和 25 年と 28 年の学校日誌によると、1 年生は農繁休業を行わず、通常通り登校し授業が行われました(写真)。

現在、富士見市では行われていない農繁休業ですが、学校教育法施行令第二十九条に「夏季、冬季、学年末、農繁期等における休業日」は教育委員会が定めるとあり、その名残をみることができます。

(山野健一)



良いお年を!



＊ ＊冬のイベント予定＊ ＊

●企画展情報

平成 26 年秋季企画展「新収蔵資料展」

市民や学校から寄贈された民具や歴史資料を、人の一生に沿って展示しています。

会期／12 月 28 日(日)まで 会場／特別展示室

●扇だこづくり

かつて富士見市の特産品として知られた郷土民芸「扇だこ」をつくります。

とき／12 月 6 日(土)・7 日(日)

全 2 回 午前 10 時～午後 3 時

会場／講座室 定員／10 名(中学生以上、申込順)

持ち物／エプロン(前掛け)、昼食

にぎりばさみ(持っている方)

参加費／1000 円(材料代)

指導／扇だこ保存会 申込み／随時、電話か直接

●子ども書初め練習会

とき／12 月 23 日(祝) 午前 10 時～正午

会場／講座室

対象・定員／市内小中学生 25 人(申込順)

持ち物／書道セット、書初め用紙、見本

申込み／12 月 2 日(火)午前 9 時から電話で

協力／硯友会

●餅つき実演と餅の販売

ちよっ蔵市で、餅つきの実演とつきたての餅の販売をします。

とき／12 月 23 日(祝) 午前 11 時～売切れまで

価格／1 パック 200 円 会場／旧金子家住宅

主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

とき／12 月 27 日(土) 午後 1 時半～3 時半

会場／講座室

対象・定員／市内在住・在勤者 15 人(申込順)

参加費／1200 円(材料代)

持ち物／はさみ 指導／^{きつかわせつお}吉川節男氏

申込み／12 月 2 日(火)午前 9 時から電話で

●正月飾り材料の予約販売

受付／11 月 30 日(日)～12 月 21 日(日)に電話で
なお締切り後のキャンセルはご遠慮ください

引渡し／12 月 27 日(土) 午後 1 時～3 時

資料館ホールで

費用／1 組 1000 円(わら付きは 1100 円)

主催／難波田城公園活用推進協議会

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解読しながら、当時の歴史や文化を学びます(全 3 回)。

とき／1 月 31 日(土)・2 月 14 日(土)・28 日(土)

の午前 10 時～正午

会場／講座室 講師／山野健一(当館職員)

定員／20 人 参加費／無料 申込み／随時

●ちよっ蔵市「マユ玉ダンゴ」販売

小正月に農作物やカイクのマユの豊作を願って飾る「マユ玉ダンゴ」をつくり、販売します。

とき／1 月 25 日(日) 午前 11 時～売切れまで

会場／旧金子家住宅

主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌(2kg 分)を持ち帰ります。

とき／2 月 14 日(土) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会場／旧金子家住宅 定員／15 組(申込み順)

参加費／1500 円(材料代)

持ち物／エプロン、三角巾、容量 10ℓの容器など

申込み／2 月 1 日(日)午前 9 時から直接又は電話で

●消防訓練のお知らせ

古民家の消防訓練を行います。当日来館の皆様もご協力・ご参加をお願いします。

とき／2 月 21 日(土) 午前 11 時 30 分～正午

ところ／難波田城公園古民家ゾーン

●年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は 12 月 29 日(月)から 1 月 3 日(土)まで休館です。公園は無休で、午前 9 時から午後 5 時まで開園しています。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前 9 時～午後 5 時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前 9 時～午後 6 時(4 月～9 月) 午前 9 時～午後 5 時(10 月～3 月)